

リスクコミュニケーションに関する取組について

リスク分析の考え方に基づき、リスク管理、リスク評価を実施する関係行政機関が連携して、リスクコミュニケーションを推進している。食品安全委員会、厚生労働省、農林水産省、環境省では、それぞれの担当官による4府省リスクコミュニケーション担当者会議を隔週で開催するなど調整を図りつつ、従来型の一方的な情報提供にならないよう、分かりやすい情報の提供や御意見募集など双方向のコミュニケーションの実現に努めている。

第39回リスクコミュニケーション専門調査会（平成20年8月19日）での報告以降、食品安全委員会、厚生労働省、農林水産省が連携して実施した意見交換会・説明会等は、以下のとおりである。

1. 意見交換会・説明会等の実績（平成20年8月1日～平成21年3月31日）

（1）3府省連携による意見交換会

開催日	会議名	開催地 参加人数
11月 18日	食品に関するリスクコミュニケーション - こんなこと聞いてみたかった、農薬のこと -	東京都 138名
12月 5日	食品に関するリスクコミュニケーション - 北米におけるかび毒のリスク評価 - 「食品中の天然毒物」 チネケ・キューパー（カナダ保健省健康製品・食品部門食品自然毒リスク評価チームリーダー）	東京都 35名
1月 17日	食育シンポジウム～安全で豊かな食生活を目指して～ 「食品の安全性とは～食品安全委員会の活動～」 小平 均（内閣府食品安全委員会事務局リスクコミュニケーション官）	静岡県 90名
1月 22日	食品に関するリスクコミュニケーション - OIEコードの改正等に関する意見交換会 - 「国際基準をめぐる最近の状況について」 小川 良介（農林水産省消費・安全局国際基準課長） 「BSEコードに関する改正提案の概要について」 「豚コレラに関する改正提案の概要について」 川島 俊郎（農林水産省消費・安全局動物衛生課国際衛生対策室長）	東京都 54名
3月 13日	食品に関するリスクコミュニケーション - もっと知りたい食品添加物 - 「食品添加物のリスク管理について」 小山田 光孝 （厚生労働省医薬食品局食品安全部基準審査課基準策定専門官） 「食品添加物のリスク評価について」 廣瀬 雅雄（食品安全委員会委員） 参加者がグループに分かれディスカッションを実施	岡山県 85名
3月 24日	食品に関するリスクコミュニケーション - 体細胞クローン家畜由来食品のリスク評価について - 「体細胞クローン技術を用いて産出された牛及び豚並びにそれらの後代に由来する食品の食品健康影響評価（案）について」 早川 堯夫（食品安全委員会新開発食品専門調査会ワーキンググループ座長 近畿大学薬学総合研究所所長）	東京都 76名
3月 27日	「体細胞クローン動物における全能性の獲得について - エピジェネティクスについて -」 塩田 邦郎 （食品安全委員会新開発食品専門調査会ワーキンググループ専門参考人 東京大学大学院農学生命科学研究科教授）	大阪府 50名

(2) 食品安全委員会、厚生労働省、農林水産省が主催する意見交換会等については、別紙 1、2、3 を参照。

2 . 今後の予定

関係者のニーズ等を踏まえ、随時開催していく予定。